

## 第1回 GTFS-JPに関する検討会議事要旨

日時 2020年8月5日(水)14:00~16:00

場所 合同庁舎2号館地下会議室

参加者 別紙「GTFS-JPに関する検討会 委員及び第1回出席者」参照  
(伊藤昌毅委員欠席)

### 1. 開会

#### ■ご挨拶 (越塚座長)

各社の資料を拝見させていただいた。テクニカルな内容になっている。

総論ではなくディテールが議論できるようになったというのは良いことと考える。

データがスムーズに流通するようにステークホルダーが連携して進めていくことが大切。

その際に誤解などがないように、この場を含め情報交換をして、よりよい方向に進めていきたい。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

### 2. 討議等

#### (1) 検討会の設置趣旨について (事務局)

※資料1に基づき説明

#### (2) GTFS及びGTFS-JPの概要について (事務局)

※資料2に基づき説明

#### (3) GTFSとGTFS-JPの現状の運用について (ジョルダン株式会社)

※資料「GTFSとGTFS-JPの現状の運用について」に基づき説明

#### (4) 事例紹介

##### ①経路検索事業者としての、経路検索サービスへの掲載基準について (Google 合同会社)

※資料「Google マップへの掲載基準について」に基づき説明

##### ②-1 実務経験者から見たGTFSとGTFS-JPの乖離について

(公共交通利用促進ネットワーク)

※資料「実務経験者から見たGTFSとGTFS-JPの乖離について」に基づき説明

##### ②-2 実務経験者から見たGTFSとGTFS-JPの乖離について

(日本バス情報協会(仮)設立準備会)

※資料「実務経験者から見たGTFS-JPについて」に基づき説明

②-3 実務経験者から見た GTFS と GTFS-JP の乖離について (ジョルダン株式会社)

※資料「GTFS-JP と GTFS の乖離状況」に基づき説明

③経路検索事業者から見た GTFS-JP のガイドラインについて (ヴァル研究所)

資料「“第1回 GTFS-JP に関する検討会”用資料」に基づき説明

(5) 検討会における検討対象について (事務局)

資料「「GTFS-JP に関する検討会」今後の進め方について (案)」に基づき説明

(6) 意見交換

- ・伊藤昌毅委員からの差し入れ文書について、議論の参考にしていただきたい。(越塚座長)
- ・今後も同様の問題は継続的に起こると思うし、Google さんも世界的な情勢によって変えなければならないことも出てくる。ギャップが出てくること自体は避けられないが、短い期間で解消できる仕組みを作っていくことが重要。(落合委員)
- ・伊藤先生の意見書を拝見した。毎回検討会を開催することが難しいのであれば、分科会や民間で検討していただいたものを検討会にあげていただくなど、どのような形で調整していくかということセットしていくことで、将来的にもつながると考える。(落合委員)
- ・自治体の職員さんがデータを作成するのは大変だということがわかったし、無償のツールがあることも分かった。これらを使っていくということをガイドラインに入れることで、ガイドラインそのものの価値も高められるのではないだろうか。(落合委員)
- ・私の所属はバス会社であり、ダイヤシステムを利用し検索サービス会社へデータを提供している。利用される方にも、作る方もわかりやすいということを意識しながら今後さらに進めていかなくてはならない。今後の流れを注視しながら進めてまいりたい。(一般社団法人日本バス協会)
- ・300 を超えるバス事業者を扱っているが、GTFS-JP の利用は時刻表に関しては19。頂いているデータでは、運賃や読みが抜けていることや、バス停の緯度経度に補正が必要なこともある。路線と系統の関係が社内システムとは異なるなど、そういった理由で簡単に増やせない事情もある。(株式会社駅探)
- ・UXに関して、経路検索はだいたい駅名などを入れる。市役所前や学校前などの候補はものすごい数が出てくる。バス会社名や県名で分けることもあるが、同一県内で同一名称バス停などもあり、日々考えながらサービスを提供しているが、そういった点置いても解決策を考えられれば良いと感じている。(株式会社駅探)

- ・問題意識としては、国内 CP が抱えていることと同一。データを預かる立場でもあり、他の会社にお渡しする立場でもある。もっとスムーズに進められるように、本検討会で様々な意見を望む。他の方のご指摘通り、作る人も使う人も、様々なニーズがあると感じており、今後計継続的に話し合う環境があるとよい。(株式会社ナビタイムジャパン)

- ・GTFS は、どんどん変わっていくフォーマット。公共交通にも新しいモードも出来る。RT などフォーマットも追加されていく。GTFS の変化により、Google のベストプラクティスも変わっていく。(Google 合同会社)

- ・MobilityData に出席している日本の人はいるのか？(Google 合同会社)  
→いない。(事務局)

- ・今後の仕組みづくりについて様々な意見を頂いた。国際基準の 1 つである GTFS は MobilityData.org が管理している。弊課として、Google との窓口は国土交通省で実施しながら、現状の課題となっている乖離について確認し、ガイドラインや記載の見直し、フォーマット自体の変更が必要であれば考える。(事務局)

- ・MobilityData.org や Google も、いろいろな方が入り込んで活動していくのは求めているようだったので、国土交通省以外の方が一般的に進めていくのは実施いただくのは問題ないと思っている。(事務局)

- ・国としても窓口となって半期に一度など、必要なリバイスをしていく、という仕組みが作れないかと思う。(事務局)

- ・半年で一度と話をさせていただくことに異論はない。ただ、現場では待ったなしの状態であり、現場は混乱している。(公共交通利用促進ネットワーク)

- ・何かが起こった時には素早く対応できるのが良い。検討会としてではなく、作業部会などを活用するのも一つの方法。(落合委員)

- ・「フォーマット」と「仕様書」があるが今回の見直しでの扱いは？(日本バス情報協会(仮)設立準備会)

→記載方法そのものを変えていく。解説の部分を変えていく。(事務局)

- ・フォーマットにはシンタックス・セマティックスがあり、セマティックスでの対応で済むものかどうか。(越塚座長)

- ・MobilityData の変更に従っていく観点で、世界中で関わっている人々がスムーズに取り組めるような仕組みがあり、そこを勉強していただくことも必要。世界各国での実施と

いう観点で、想定されている仕組みなどを調べてご紹介いただくのが良いかと思う。(越塚座長)

- ・伊藤先生からご指摘頂いただいた項目にたいする事務局としての回答はいかがか？(日本バス情報協会(仮)設立準備会)

【回答】(事務局)

- ・1の方向性の再確認に関しては、乖離の部分を先に直してまいりたい
  - ・スコープに関してや仕組みづくりについては、頻度は別にして定期的に国土交通省としても Google さんなどとコミュニケーションを図っていく
  - ・資料の数字に関しては、結果として Google マップにのっているかどうかの差があると考え
  - ・4のリアルタイムに関しては、どこまで含むかは、RTの部分で記載されているものから変化があるのであれば、そこも検討に含めたい
  - ・5技術検討会に関しては、まずは記載方法を変え、その際には、関係者にコミュニケーションを取りたい
- ・本日頂いた意見などは反映させていきたい。(越塚座長)

### 3. 閉会

今後の予定(事務局)

技術検討会議などに関しては、実際に変更の必要があるかを含めて精査していきたい。各国の対応状況なども含み、年内に定め、そのあと自治体などへの勉強会などを開催してまいりたい。

以上